立教大學新聞
発行所
豊島区池袋三丁目
立教大学新聞学会
振替東京 70852
電話(983)0111(代)内線97
発行人　野口定男
毎月十五日発行

文房具は
芳文堂
立教通り
TEL (971) 0709

立教祭大要決まる

実のある学園祭に

スロガーン〝科学的思考と民主々義精神の育成〟

立教祭が十一月三、四、五日に決まり、その大要がこの程立教祭実行委員会から発表された。予算総額は二〇万円。今年は立教祭スローガンとして「科学的思考と民主々義精神の育成」が掲げられ、更にサブタイトルとして「若き力を結集し、世界の平和と繁栄の道につなげよう」が決められた。実行委員会では今年の立教祭を文字通り全学的にするために、盛りあげてゆくといっている。

予算総額は二〇万円と昨年の約二割増である。「文化祭」と銘打っていた学園祭を、もっと学生間に打ち解けた全学的なものにするという意味で「立教祭」と呼ぶようになってから二回目を迎える事になったわけである。「文化祭」と呼ばれた時を含めて、まだこの学園祭が十余年の経験しかもっていないため、従来またはっきりした性格が打ち出されぬ傾向があった。

今年は「科学的思考と民主々義精神の育成」を立教祭スローガンとしてのみ、サブタイトルに「若き力を結集し、世界の平和と繁栄の道につなげよう」を掲げ、文字通り全学的なものとする様、いろいろ手が打たれている。今年の学園祭の傾向としては、参加団体が昨年に比べ相当数の増加が見込まれ文化会各部を中心に体育会、ゼミナールの参加も昨年を一回り、又実行委員会も独自のテーマをもつなど幅の広いものとなりつつあること、文化会各部で映画、スライドを多く利用し「説ませる」ものから「見せる」ものとしようとしていること、聖歌隊が立教祭開祭の前夜祭に参加しようとしていることなどがあげられよう。

以上のことから今年の傾向として、実行委員会が立教祭基本方針の中で……自主的創造的な研究活動の進展、意識の相互交流による科学的思考力の拡大、そして社会情勢の危機に対して真の民主々義精神の育成を個々人に期待し平和と民主々義の社会の達成を目指すもの……と述べている線にそったものもある。しかし、立教祭実行委員会がこの様なスローガンを掲げたことに対して、スローガンが各団体の強い連帯感を示すものであるというが、今回どこまで各団体に徹底しているかという点を見てみると、実行委員会の一部の結衆で決められた感じを受け、この様な状態では、ますます実行委員会と各団体が遊離される恐れがあると見る意見も出ており、事実ほとんどそれは無関係と思われる面も見受けられる。が、しかし今回のスローガンはこの学園祭において今迄になかった新しい形として現われたものとして注目してよかろう。

内容的に主な催物を拾ってみると三日、幾長、各学部長級の教授を招いて〝学生生活の本質〟をテーマとする「乞食の歌」（於タツカーホール）などがある。各参加団体の企画の中には、文化会本部主催の「学生会館について」を特に図や写真を用いてPRしようというもの、国際情勢研の「中国問題」展示、弁論部「憲法改正問題」、証券研「投資信託」、経済学研「労働賃金」、経営学研「戦後日本の賃金格差」、経営管理研「コンビナート」などがある。

放送研究会

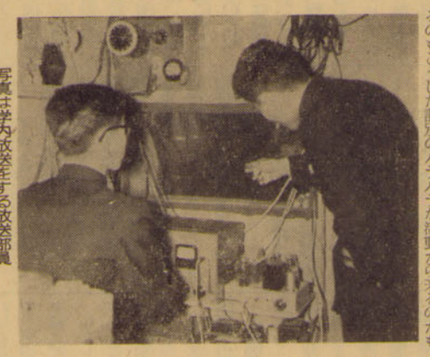
妖しクエ巡めぐり (2)

毎日昼休み、第一学食のスピーカーから学内放送が流れている。昼食時の喧噪のなかで良く聞きとれないことが多いが、この放送を担当しているのが放送研究会だ。放研ができたのは八年前、昭和廿八年である。

以来〝放送文化の発展のために〟活動を続けているわけであるが現在の部員数は百数十名、文化サークルでは大世帯である。だからスタジオを入れて二坪程の部室では放送機械を置くばあとは手いっぱい。部室はもっぱら連絡場所である。

組織も活動内容別にアナウンス技術、ドラマ、理論調査等の課に分かれ、活動はもっぱら各課毎にバラバラに行われている。全体で一つにまとまって活動にとりくむことをめったにないという。番組内容にデスクジョッキーやスポーツハイライト等比較的軽い内容のものが多く、理論的な研究に裏づけされ深い内容を持ったものがまゆみられず、放送技術の向上の方に偏重しているような感がある。のもこうした課別のバラバラな活動から来るのかもしれない。理論調査の活動がマスコミ理論の研究や、学生の放送という大学放送の特殊性を生かし、斬新で内容のある番組を組んでゆくことがその任務であろうし、そのために、既製の商業放送の概念にとらわれない、大学放送の理論を創ってゆく必要もあるはずだろうか。政治的問題にはほとんどタッチしていないというのもこうした欠陥から出ているのであろうが、激動する社会をとらえ、学生の抱きさまざまな問題をとらえてゆくとともに、放送文化の果さるべき役割があるとするならば、深い内容を持った録音構成等の放送番組にもっとタッチしてゆくべきだろう。

放研の制作するドラマは意欲的なテーマをとりあげたものが多く、コンクール等でも好調のようだ。昨年は交保闘争を扱ったドラマを制作したが、今度の立教祭には朝鮮人問題を扱ったものを発表するという。学内放送がもっと多くの学生のものになり、内容も技術的にもより高い水準を持った番組を組んでゆく必要があるだろうし、そのためにはディスクジョッキーやスポーツハイライト等ばかりでなしに、今までの番組のカラを破った斬新な企画と共に、バラバラの活動ではなく、理論や技術の各部門が有機的なつながりを持って活動してゆく必要があるだろう。


写真は学内放送をする放送部員

「学生健保組合」

来春四月実現へ交渉中

一昨年来、級委員会が着手していた学生健康保険組合設立の問題がいよいよ具体化しはじめた。級委員会ではすでに研究調査の段階は終り、来春四月からの実施を目標に関係各方面に動きかけをおこなっている。十月十三日には級委員会、文化会、体育会の三部会で学生健康保険委員が組織されたが、今後はこの健保委員会を中心として健保の全学的組織の確立のため、啓蒙、宣伝に力を入れ、全学生の意志を結集していくという。さらにこの健保委員会と学校当局の保健委員会（学生部内）と健康保険組合設立準備協議会を構成し、協議を進めてゆく方針をたしている。

来春四月から発足するためには遅くとも来年度学校予算の決まる十二月前に、具体化しなければならず、細かい草案も出来ていないので、未だ学校当局との交渉の段階には至っていないなど、色々危ぶまれる点もあるが、学生部も協力的なので、見通しはますます明るいといえよう。

級委員会の大体の案では慶応大学のように特定病院の窓口で即時半額とし、最初の一年間は試験段階として、聖路加病院、板橋病院、要町病院、学院診療所などを候補にあげている。給付額は一律五〇%とし、最高額を限定するが、組合員が他の国保、共済組合保険などに加入している場合は、両方五〇%ずつで、全て無料で治療出来るわけである。

【解説】大学における健康管理の目的は疾病予防、早期発見、健康相談などにあるが、今日では治療の領域にまで対象とすることによって、疾病の早期治療を図ることが求められている。本学には学生の健康管理機関として、立教学院診療所があるが、今まで応急処置又はきわめて軽症の患者しかつてきておらず、健康管理機関としての、機能を充分に果してのとうか疑問視されてきた。

学生の修学を阻むものとして、経済的貧困と疾病がある。前者は、各種奨学金制度などで、ある程度組織的に打開策がとられてきた反面、後者がなおざりにされてきた。

学生健康保険は、学生が病気になった場合、治療、療養の経済的裏付けとなるもので、既に京都大学、山梨大学など十六の国立大学と同志社大学、慶応大学などに設けられている。明治学院、関西学院、日本大学などでも設立準備中であるが、本学では、私立大学の健保の先鞭をつけた同志社、慶応大学の組織を採用し、設立計画案を作成中である。

保険は被保険者間の相互扶助が本質である。もし個人の任意加入とすれば、傷病の可能性の大きいものだけによる選択を招いて、経営はひきうまい、保険の意味はなくなってしまう。従って一定の集団内では、個人に対して加入を強制的にすることが必要になる。これは法律保障の約付についても、最終的には強制徴収措置がとられることを意味する。

既設校では、この保険料負担能力について、大分問題にされたが、本学の場合、現行の保健費六〇〇円（年額）をふりむけるようにすることで解決される。級委員会では運動推進にあたって、基本点として第二に、この六〇〇円を健保の費用に充てることを確認している。級委員会では運動の展開について私立のトップをきった同志社大の運動から得られた教訓をもとに全員加入制を目指して、全学生の意志結集に成功した慶応大学が、運動開始後数カ月で、実現した例もあるので、署名運動、クラス、サークル、ゼミナールでの討論会などを活発に行い、啓蒙、宣伝に力を入れて、全学生の意志を結集し、学生大会を経て全員加入制にもっていく計画であるという。尚、各大学の学生健保状況を比較すると同志社大学――全員加入・年額五〇〇円（内一〇〇円は健康管理費）・学校補助年額五〇万円・対象一般傷病・給付一律五〇%最高四万円・組合員一時立替え、組合員の請求により支払（以下同厚）

京都大学――任意加入・年額三〇〇円・補助ナシ・歯科除く一般傷病・給付四千円まで五〇%、以下二千円増毎一〇%減、二万円以上一〇%・一時立替（但京大付属病院、結核研究所に限定）

慶応義塾大学――全員加入・年額六〇〇円（内一〇〇円は健管費）

人件費学校負担・歯科除く一般傷病・一律五〇%、最高四万円まで二千六カ所の病院に限定し、窓口即時半額。

今月二十五日に 立教学院 綜合運動会

立教学院綜合運動会は十月二十五日（水）、神宮国立競技場で開かれる。水、中、高は全員参加、大学生の参加と、昨年度からの種目増加で増えてきているので、主催者の体育会本部では大学生の参加を強く望んでいる。

尚、当日は九時から開始される。雨天の場合は二十六日に順延される。両日とも雨の場合は中止。運動会の翌日は休日。

東京六大学学園祭

情宣連絡会議開かる

学園祭のシーズンを迎へ、東京六大学学園祭情宣連絡協議会が、去る九月二十二日早稲田大学で開かれた。この連絡協議会は昨年度より持たれたものであるが、主として、相互の協力、合同企画を組むことなどによって技術的な向上を目的とし、一環した大学の傾向を打ち出そうというものである。今回は六大学学園祭基本方針として『反体制運動の温床』『変革エネルギーの育成』という点が打ちだされた。

討論内容としてはこれと学園祭が全学的なものになっているかどうかという点であったが、結論は今後の協議会に回された。その他学園祭の合同ポスター、合同チラシを車内、各駅、神宮球場で配布することなどが決められた。更に突き進んだ問題は今後の会議に託された。尚、六大学の学園祭期日は法政祭十一月一日～五日、駒場祭十一月十八、九日、早稲田祭十一月二十一～二十六日、慶応義塾祭十一月二十三～二十六日（三田校舎工事中のため日吉校舎で開催）と決定している。（明治大学は欠席）

文学・芸術雑誌展（立教祭で）

立教祭の十一月三日～五日まで、第十五回読書週間の記念行事として日本文学研究会の主催で、現代文学・芸術雑誌展示会がおこなわれる。両日とも雨の場合は中止。

立教文学会発足

来春「立教文学」を創刊

九月に立教文学会（代表・杉木喬教授）が、立教学院における文学活動を推進すると云う目的で発足し、来春には文芸誌「立教文学」を創刊することになった。この会員は、立教学院の卒業生、在学生、教職員に限り、会費は年額千円となっている。この会の連絡先は、豊島区池袋三丁目、立教大学内「立教文学会」宛。

立教文学会では「立教文学」創刊号の原稿を募集している。創作、評論、詩歌、外国文学翻訳、戯曲など各部門にわたるが、枚数は原則として百枚以内で、その第一号原稿〆切日は十一月末日になっている。

村地教授（理学部）逝く

本学理学部の村地孝一教授は、十三日、東大神中内科で白血病のため死去した。

村地教授は、放射線生物学の開拓者と多くの研究業績を残し、最近は放射性物質の影響と利用に関する日米会議委員、原子力委員会専門委員、放射線審議会委員、国際遺伝学会議組織委員等を歴任、国連科学委員会第三回会議にも代表顧問として出席する等国際的にも活躍していた。村地教授は昭和十年東北大学理学部を卒業、十二年理化学研究所に入所、二十四年本学理学部教授に就任した。

二十六年間にわたる研究生活のすべてを放射線と生物の研究にささげ、二十年八月には原爆投下直後の広島で調査も行った。戦後は、都立大の森脇教授と共同でショウジョウバエを使って X 線の突然変異の研究を発表し、世界的にも反響を生んだ。

告別式は十八日正午より、本学チャペルで行われた。

写真は故村地教授

立教祭 参加 講演会

会告

十一月三日から開かれる「立教祭」に参加して、さきに募集した懸賞小説の入選発表と表彰をかねて、左記の要領で記念講演会を開きます。

記

一、時　十一月三日午后一時
一、場所　五号館一五四番教室
一、講師　村松　剛氏
一、演題　現代文学とナチズム

立教大学新聞学会

「観光・ホテル講座」開講

大平氏の死去以来（本年の三月）休講となっていた「ホテル講座」が「観光・ホテル講座」として再出発した。

従来のホテル講座は昭和二十一年に、日本ホテル協会の支援の下に、米国コーネル大学を模範として開講されたもので、日本最古の伝統を有し、多数人材を斯界に送り出しているが更に時代の要請に答える為、今迄のホテル講座を観光・ホテル講座と改名し、その組織、内容を一層強化する事となった。

運営委員長には社会学部長小山栄三教授が当っており、講師には日本ホテル協会会長犬丸徹三氏はじめ多数の観光・ホテル関係者が顔を並べている。

本年度は十月十日で出願を締切ったが、出願者は七十数名に達している。

尚詳細には社会学部教務課で相談に応じている。

論説　立教祭を前に

文化運動の認識を

学内には文化会に所属する百に近いサークルがあり、本学の学生の約五割はそれぞれの動機と目的を持ち、それぞれのサークル活動を営んでいる。各サークルの目的とその存在意義とエネルギーを、一時に、一堂に集約させ、全体としての展望を見出る立教祭もあと数日をあますところとなった。今年は例年になく立教祭基本方針が出され、スローガンもこれまでのコンプレックスを裏返したようなものとは異り、ある程度、具体的かつ建設的な傾向が出て来ている。

前回との意欲の相異を示す立教祭実行委員会から出された立教祭ニュースの基本方針に見ることが出来る。同時に、残存する旧来の鼻もちならない浅薄な祭気分も又、立教祭ニュースの紙面に汚臭を放っている。あまりの汚臭に少々変色している基本方針ではあるが、創案者の若々しいエネルギーに勉強ぶりにまず拍手を送ることにする。

序文には〝より良き社会を作り出す責任を強く自覚し、歴史的使命感をもって現状達成のため三十六年度立教祭を迎える〟と宣言し、「世界の動向」「日本の動向」においては、具体的な、正確な、初歩的な現状分析がなされている。「世界の動向」では、アメリカを中心とする帝国主義諸国による矛盾に満ちた侵略的軍備強化政策と、これを迎える拡大する社会主義勢力との衝突の危機が叫ばれ、「日本の動向」では〝わが国は安保改定により、東西二大陣営の対立する中にあって、中立化を示すことなく完全に帝国主義勢力の一翼を担うことになった〟と明言し、権力の反動化を一つ一つ具体的に指摘している。

このような正確な現状分析が出来たにもかかわらず、「文化創造と学生の役割」においては、意識の問題に低迷するだけでまったくその具体性を見失ってしまい、現状分析から当然提起されるはずの行動のプログラムは、まちがいだらけの文章のどこをどう捜しても見出されない。しきりに〝人格形成〟や〝自己変革〟や〝強固な行動意欲〟の必要性が説かれている。しかし〝人格形成〟〝自己変革〟の本質的な意味が明確に把握されず〝強固な行動意欲〟が何に向けて、どのような形態をとるかが確認されていない。姿勢だけはどうやら前方を向いているが、一歩も踏み出せない状態である。〝自己変革〟や〝強固な行動意欲〟は行動の無いところからは出て来はしないのだ。

お祭り気分の汚臭に最も冒されているのは「最後に」におけるまったくの蛇足である。〝多様性〟の強調である。〝民主々義精神の育成〟と〝多様性の育成〟を混同して、立教祭をたんに友交的で賑やかなお祭りにしてもらうては困るのだ。社会的連帯性のない、個人の追求のみを目的とした趣味団体はもはや現代的存在意義を失っているのだ。立教祭において、ただ〝在る〟だけの積極的存在価値のない趣味サークルは、〝全学的〟に呼応した〝多様性〟としてたんなるアクセサリーとしか評価出来ないであろう。

明日の社会に連帯しない、面白可笑しさの、刹那的スリルの、生産物なものない技と抽象的な形式の追求は〝在った〟という現象的事実として歴史に記録されるのみで、すでに文化の創造者としての位置を得ることは出来ない。より良き社会へのたゆまない創造活動と共に、その創造活動を遮るものに対しての徹底した闘争の過程に文化が生まれるのだ。

日本の動向は世界の動向に密接し、日本の動向は我々自身を規制しようとする立教祭を目前にして、実行委員会諸君の現状認識が現状打開運動に発展することを期待する。立教大学という一社会の文化の祭典である立教祭が世界の動向、日本の動向を鋭く見極め、我々を規制する現在の日本の動きに的確な行動をもって対応して行くことを期待する。

スポーツ

◎サツカー…関東大学サツカー部リーグ戦の試合は、十月十五日午前一時から東大御殿下グラウンドで行なわれ、ともに上位校の立大、明大が順当に勝つた。
立大　3――1　教大

◎ヨ　ツ　ト…十月七、八の両日横浜ヨツトハーバーで行われた日立法三大学対抗新人戦で綜合優勝。

◎バスケツト…秋期関東六大学リーグ戦は九月二十三日から台東体育館で行われているが、第四週を終つた現在、立日教が同率で首位にいる。

（戦績）
第一週　立（70―60, 73―71）日
〃二〃　立（55―82, 93―69）早
〃三〃　立（77―80, 89―90）教
〃四〃　立（75―61, 76―66）慶

◎剣　　道…第十回関東学生剣道選手権（大学対抗）は九月二十四日両国日大講堂で行われた。立大は準決勝で前年度優勝の法政を接戦のすえ敗り、決勝に進出。決勝で5――2で敗れ、明治が四度目の優勝をしたとはいえ、準決勝進出さえも全く予想されていなかつた立大の健闘は讃えられてよい。

◎サツカー…第十四回対同志社定期戦（九月二十四日、西京極グラウンド）　立　7――1　同
（立大の13勝1引分）

◎アメリカンフツトボール…関東大学リーグ（後楽園競輪場）立教は明治、防衛大、日体大を下し、日大と三勝で並んでいる。

立教祭実行委員会

本科生（新制大学二年に在学又は同等の学力ありと認められたもの）

〈受講料〉
学外者　一五〇〇〇円
学内者　一〇〇〇〇円

聴講生（特定のコース・科目を撰択するもの）

〈聴講料〉
一コース　八〇〇〇円
（組一本年度は半年分の受講料）

変紋

新経済学部長に小林章教授が就任した。小林教授には新任に当って、経済学部の学生の質の向上をはかるために専門課程の試験をもつと厳格におこなうといっている。さらに経済学部では今年から仮卒業がなくなり、卒業延期ということになるという噂もある。こうした経済学部の学生に対する〝引き締め〟は学生を大分あわてさせているようだ。▼本学では所謂単位制と学年制とが併用されている。一、二年の一般教養課程では学年制がとられ、出欠も厳重であるが、三年になり専門課程に入ると単位制になる。そこで三年になると出欠はとらないし、授業もあまり面白くないしというわけでのんびり過ごし、卒業間際にあわてる学生がでてくるという現象が起つてくるわけだ。▼たしかにこうしたことは良いことではないし向らかの対策もとる必要があるだろう。しかし、この問題は単に学生のみの責任として、試験や、卒業への単位を厳重にしてみたところで少しも解決にはならないのではないだろうか。それ以前にこうした問題の生れる根本的な原因を解決する必要があるだろう▼例えば、授業のマスプロ化だ。タツカーホールに千人もの学生を集め教授はマイクで講義する。学生に黒板の字もみえないといった授業を受けて、学問に対する情熱を沸かせといってみても云う方が無理な話だろう。それからゼミナールの問題だ。経済学部一学年約千名の学生に対して定員は約三百名、七割位の学生はどうしてもアブレる勘定である。学生が教授と親しく討論し、落ちついて勉強できるのは何といってもゼミナールであろう。ゼミに入るようになって初めて学問らしいものにふれることができるとも云えよう。ところがゼミに入りたくてもアブレてしまう現状では、授業にあきたらず、ゼミにもアブレた学生は学問に対する情熱もうすれてしまい、就職用に単位をそろえることしか考えなくなってしまうのではないだろうか▼教授方が学生に対して現状以上のものを望むならば、こうした問題の解決にもっと力をそそいでもらいたいし、大学で学問をすることはどういうことなのかをもっと親密に学生に語りかける必要があるのではなかろうか。こうしたことから当ってゆかないかぎり学生を〝引き締める〟だけでは問題は解決できないだろう▼もっとも、こうした問題は経済学部だけではなく他の学部にも見られることであり、大学全体の問題として考えられなければならないのであろうか。

あなたの夢をそのままに……
軽い甘いムードを奏でる音楽も
心憎い程豪華です
TEA ROOM 南蛮 高級純喫茶 上高地
TEL(982)7080　池袋西口　TEL(971)4700

いかに音楽を聞くべきか ―音楽入門―　山田博著　B6判・美装本・三三〇円　再版発売中
▼内容▼
河上徹太郎氏評
渡辺一夫氏評
竹内好氏評
Ⅰ音楽とは何か ―芸術とはなにか―
Ⅱ音楽を聞くに必要な三条件
1、耳を慣らすこと
2、演奏を聞かすして曲を聞くこと
3、メロディを覚えること
Ⅲなぜ音楽は人生に必要であるか

大学と人間 ―大学における人間形成―　宮本武之助編　B6判・二二〇頁　二八〇円・送50円
近代の大学の歴史とその批判、キリスト教大学における学問、学問と信仰との関係等の考察をして大学における人間形成の問題を検討
共同執筆者　松川成夫、大須賀潔、小田島嘉久、佐藤敬夫、奥谷三喜男、宮本武之助

神と人間　キリスト教入門　高木幹太著　自分が人間でないという、おかしな近代人の嘆きの叫から人間回復をめざす　絶賛8版発売中　新書一五〇円・送40

私の政治的発言 ―信教の自由を侵されている―　佐古純一郎著　（近刊）

日本YMCA同盟出版部　東京都千代田区富士見町・振替東京0196

現代思潮社／最新刊　東京都千代田区西神田2・19　振替・東京／72442
試行　谷川雁、村上一郎、吉本隆明三氏同人誌　《九月発売》
マルクス主義とはなにか　H・ルフェーヴル著　森本和夫訳　三〇〇円　絶和と余剰／第6部
ローザ ルクセンブルグ　T・クリフ著　浜田泰三訳　一六〇円
わが生涯　全3巻／上巻絶賛発売中　トロツキー自伝　共訳・重田勇／渡辺寿他　B6判上製箱入クロース装　上／四三〇円／中・下続刊
歪められた歴史の真実を解放する、激しい告白と証言の記録！現代史の重みと体温を、その戦慄と感動を、伝える！
現代新書《九月発売》

現代用語の基礎知識　一万二千八百語収載　大冊千百頁　定価四百円　地方百円
あらゆる時事問題の大宇宙　各方面の推奨山積！
大宅壮一氏：類書を圧する最高の内容・心から推奨する……中野好夫氏：新版は旧版と異質的な新語の宇宙になった……高島善哉氏：世界的ブロックハウス事典より優れている
待望の62年新版・本日発売！
最新語大増加　62人の良教師を学生諸君の眼の右に
最新テキストに常識試験合格の
外交・教育・共産・労働・大河内一男　政治・中・横田喜三郎　行政・辻・清明　法・信・村　経済・高・木　軍事・高・木　財政・飯・田　経済・鈴・木　農業・山・上　貿易・坂・口　商業・坂・城　金融・酒・井　保険・藤・木　証券・高・橋　銀行・木・村　会計・飯・島　経営・山・口　管理・竹・内　組織・吉・田　人事・辻・本　労働・宮・川　経済学・原・田　哲学・多・賀　芸術・宮・本　文学・岡・崎　言語・内・田　風俗・宇・佐　外国・鈴・木　歴史・大・内　地理・高・橋　倫理・宇・野　教育・長・谷　心理・飯・島　論理・小・林　など56部門網羅
本書の即座に回答しない言葉はない
B6判上製箱入クロース装　上／四三〇円／中・下続刊
自由国民社　振替東京183009
売切の節は本社へ　東京京橋交叉点角

研究社の英語雑誌
近代感覚漲る文化語学誌
時事英語研究　11月号・100円
映画台本研究「さよならをもう一度」
自動車でモスクワまで　（米紙記者）
フルシチョフ対マルクス　（社説研究）
趣味のアメリカTV俗語　（山崎英夫）
ヨーロッパ漫遊記スイス（佐渡谷重信）
英語に強くならない法　（金生正道）
広い視野・実力の源泉
英語研究　11月号・90円
■対談：ウォルタ・リップマンは語る「ベルリンの危機」■随筆：アンドレ・モーロワ「読書の喜び」■米国拝見「ウェスタン音楽の旅」■アメリカ娘■20世紀英米文学史■英米のマスコミ――放送局■映画台本「替え玉作戦」
東京都千代田区富士見町二の一　研究社　振替東京28601

法律学講座双書
憲法　鵜飼信成
新版 行政法 上下　田中二郎
民法総則　舟橋諄一
物権法・担保物権法　吾妻光俊
債権法　吾妻光俊
親族法相続法補正版　有泉亨
商法総則　石井照久
会社法 改訂版　鈴木竹雄
商行為・保険・海商法　鈴木竹雄
手形法・小切手法　石井照久
民事訴訟法 上下　菊井維大
強制執行法・破産法　斎藤一
刑法 改訂版　団藤重光
国際法概論 上下　高野雄一
国際私法　江川英文
労働法　石井照久
法哲学概論　碧海純一
法律学入門双書
要説憲法　鵜飼信成
要説民事訴訟法　斎藤一
要説行政法　田中二郎
既刊三冊　以下続刊
東京神田駿河台　弘文堂　振替東京53909

反帝 反独占 その"日本的結びつき"とは

構造改革の諸問題

（最終回）

日本共産党第八回党大会をめぐって、構造改革論争はその頂点に達し、革新陣営の動向に非常な影響を与えている。春日庄次郎氏等の脱党と新党結成への動き、第七回原水禁大会における平和運動の"体質改善"要求などの動きは、その具体的現われと見ることができる。本紙の特集"構造改革の諸問題"においてはすでに二回にわたり社会党からの問題提起、総評、共産党からそれに対する批判が展開され、その中で構造改革路線の内容と問題点はほとんど展示された。しかしながら、"日本的な諸条件のもとでの構造改革路線は可能か"という多分に実践的な立場からされたこれらの論争は、政策的立場あるいは党派的立場からの批判にとどまり、それぞれの理論的根拠は明らかにされずに終っている。本稿は"構造改革諸問題"の最終回として、これらの論争点をふまえ、さらにその理論的根拠を追求して、構造改革路線の可否を結論づけ、さらに残された問題を明確にして今後の問題提起を行うものとする。（編集部）

社会党（江田書記長）、総評（岩井事務局長）、共産党（土岐経済調査部長）の三者からの論文において、たたかわされた議論は主として実践的な色合いが強く打ち出されその理論的証明はあまり与えられていない。このことを確認しながらまず社会党からの問題提起をみてみよう。そこでは、はじめに構造改革論の一般論としての展開が行われている。まず『構造改革路線は高度に発達した資本主義国家における社会主義への一般的接近形態である』と前提し、そしてこの路線は政治的民主主義を通じて独占資本主義の活動を制限し統制していく斗いであり、これは単に経済の構造改革ばかりでなく、政治的上部構造の変革も含めて考えられている。しかしながら生産関係の根本的変革（社会主義）は政治権力の移動なくしてはありえない。』

したがって構造改革とは『大衆の日常要求に根ざし、社会主義の目標に接近する政策と運動の体系をうちたて、それに基いて、政策転換と生産関係の部分改革をはかり、独占のよって立つ基礎をほりくずしながら権獲得に接近していく、政治路線の問題であり斗いの形態だともいうことができる』と説明している。これは構造改革論のあらましとしてほぼ承認しうるものである。しかし以上の一般論から生まれた社会党の構造改革路線およびその具体的政策はたして全面的に承認できるものだろうか。社会党が総選挙前の党大会で発表した構造改革の体系は三つの柱より成っていた。第一の柱は貧困解消に基調をおいた二重構造打破（生活向上）をめざす諸政策であり、第二は反独占の規制の諸方策。第三の柱は、そのための貿易構造の改革、政治的には中立、日米軍事同盟の打破をめざす方策である。社会党はこの三つを日本における構造改革の政策体系の軸としていかなければならないことを明らかにしている。また、この路線を採用する契約条件として①安保斗争は憲法に保証された民主主義のもとで、院内斗争と院外における大衆斗争を結合して斗うならば独占の支配のもとにおいても政策転換のたたかいに勝利を得ることができる。ことを証明した。②池田内閣のプランに対しては、構造改革の積極的プランを出すことが斗争のうえに必要である。③社会党が安保斗争のなかではじめて大衆斗争を指導する中核となりえた。④国家独占資本主義への発展が、その一部構造（生産関係）への労働者の介入を可能にし、その部分的変革をも可能にした等をあげている。

ここで問題になるのは問題は社会党の構造改革とその諸方策が総選挙を前にした党大会において、"従来の、独占に対して単に反対攻撃をかける斗争方式から、先制攻撃をかける斗争方式という言葉を叫ぶような斗争方式から、先制攻撃をかける斗争方式という言葉あり、とりわけ構造改革の主力は労働組合であり、そこでは、資本主義への部分的改良主義の危険に通ずることにもなろう。この点に関し、総評の岩井事務局長はこう指摘している「大衆行動の主力は労働者であり、とりわけ構造改革の主力は労働者階級であってその成否は独占に対する力関係にかかっている。あの三池斗争で二二〇〇名の首切りに対して就職あっせんを政府の責任でやれという事だけでも、あれだけの斗争をしなければできなかったわけだ。これが労働運動の実態なのだ。構造改革は労働運動の実態から離れた青写真であってはならない。」

構造改革は労働運動の現状に密着しつつ、日本の運動のこれまでの欠陥を克服し、これを前進させる見通しが明らかにされてはじめて、その有効性の第一段階が保証される。労働運動の現状からの遊離と、党自体の政策転換的要素の生産関係に労働者を介入させ、その部分的改良をかちとろうとすることは、資本主義を漸進的に改良する改良主義の危険に通ずることにもなろう。この点に関し、総評の岩井事務局長はこう指摘している「大衆行動の主力は労働組合で偉大なる一連の数学者スミルノフが、スターリン賞を受賞した数学体系書で、単に基礎論のみでなく応用面にも十分な意を配った。

★各巻／A5・二〇〇～二六〇頁・価六〇～六八円

▼第9回配本中▲

政策転換臭が強い〈社会党〉

―残された課題―

「アメリカ帝国主義への斗いの評価」

不当に軽視されている。この点に対しての共産党からの批判は甘んじて受けなければならないようである。共産党土岐経済調査部長はこうしんらつに批判している。

「日本は沖縄、小笠原をアメリカによって占領され、本土には数百の米軍基地をかかえて、安保改定際してのアイゼンハワーの来日に見るように、日本の主権は著しく侵害されている。この事実に目をつぶって、国民の目を反独占一本槍にしぼることは、とりもなおさず社会党のアメリカ帝国主義にたいする日和見主義と反共的セクト主義を合理化する試みに他ならない』

アメリカ帝国主義の諸政策に対する具体的なたたかいは、社会党の構造改革論のなかではほとんど明らかにされていないのである。

浅沼前委員長の北京における発言―米帝は日中両国民の共同の敵―を打ち出すことのできない現状はこの間の事情を雄弁に物語っている。

以上、社会党の構造改革論にもとづく諸政策を逐一検討してきたが、この、なかで明らかになったことは、それが社会党自体の『政策転換的な要素を多分に持っており、したがってその反面においては理論的論拠の追求が全く不十分であったため現実に構造改革路線を実行するにあたっては決定的ともいうべきこの問題点があるということであった。すなわち、一つは労働運動の実態から浮きあがったものであり、かえって労働運動を経済的改良主義へ導く危険度が大きいこと、二つはアメリカ帝国主義に対するたたかいが不当に軽視されていることである。

「声明」の意味するもの

―〝従属国規定〟は正しいか―

これまでは本紙に寄稿された社会党からの論文を問題提起として主として社会党の構造改革路線とその諸方策について検討し、それらは経済的改良主義への右旋回に通ずるであろうと指摘した。しかしながら社会党のそれは多分に実践的、政策的色合いが濃く、従って右旋回へ通ずる危険性の主な原因もその理論的な弱さと現状分析の甘さによるところが大きいこともわれわれはすでに了解したところである。しかし、構造改革は単に社会党が政策として取り入れたものばかりでない。先般、日本共産党を除名されたマルクス主義経済学者を含む多くのマルクス主義経済学者によって主張されている構造改革論とそのうらづけとしての理論は、その理論的水準の高さ現状分析の広さ、深さ等の面から云っても社会党の『政策的構造改革論』とは別種のものとみるべきであろう。構造改革の可否を論じようとする場合、これらの経済学者の主張の理論的背景を追求することが絶対の条件であることは間違いない。以下これに対する日共からの批判、反批判を通して、構造改革派の正しい部分とその理論的根拠を探り、構造改革路線の可能性を探ってゆくことにしよう。

問題の整理をはかるために、まず構造改革路線を可能にする理論的なバックを図式的に描いてみることにする。構造改革路線―独占主義論（一つの敵）―日本帝国主義自立論。これにイタリアの構造改革論、さらに八十一ケ国共産党労働者党代表者会議の声明を加え、これらの理論的背景を洗いてその一貫した理論的背景を洗っている。これに対して日共の側からは、二つの敵―日本帝国主義従属論という理論のもとに、構造改革派はアメリカ帝国主義に対するたたかいを日和見的なものとし、イタリア共産党の独自的な経験をそのまま、日本にあてはめ、さらには、八十一ケ国声明の内容をも意識的に歪曲する修正主義であるとの激しい批難、攻撃を浴びせている。だが、ここで細かい論争点に立ち入り議論することは望ましくない。理論の基本的な立脚点に立ち戻って、いづれの論理が正しいかを見究めるのが本稿の目的である。

日本の独自性こそ問題

―民族独立闘争との接点は―

このように述べたからといって構造改革路線全般が承認されたとみるのは早急である。大きな問題すなわちアメリカ帝国主義に対するたたかいはどう組まれるのか、という問題に対する解答が依然あいまいのまま残されているからである。構造改革論の立場からはこの問題についてこう説明されている。「当面、独立闘争が主として強力な対政府闘争として展開されねばならず、民族独立闘争、平和擁護闘争などが反独占闘争を軸に全体として合流して日本帝国主義の復活に反対する巨大な民主主義闘争に集中されてゆくこと、この過程そのものが社会主義への日本の特別な独自性を形づくりつつある（上田耕一郎氏）要訳筆者。

この"独自性"の具体的内容が明らかにされていない点が問題なのである。他の論者の意見をきいてみよう。「アメリカ帝国主義による日本の主権の侵害と制限ということ自体は民族的性質の問題であるが、その解決条件は反独占闘争（階級闘争）の推進にある。それは民主主義擁護や搾取制限の闘争と一体のものとしてすすめられるべきものである。この反独占闘争は同時に間接的には反帝（アメリカ帝国主義）的性格をもつ」（佐藤昇氏）要訳筆者。

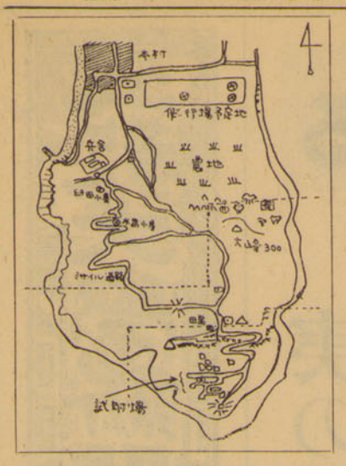
ここでも問題は間接的という言葉で表わされている内容なのである。これを反独占闘争をやっていれば必然的に反帝（アメリカ）闘争が実現されていくという日和見主義と解すべきではないだろう。

しかし、それでは反帝闘争は具体的にどう組まれ、あるいはどう闘争に完全に答えることはまだできていないのである。

構造改革とは、高度に発展した国家独占資本主義社会の下部構造（生産関係）に労働者が介入し、独占の（上田耕一郎氏）要訳筆者。利益追求本位の政策から、労働者および国民、大衆の利益のための政策に転換させ、その構造の部分的変革をめざし、権力獲得の足場を築いていくたたかいの形態であった。そこに、反独占民主主義闘争のもつ積極的意義―社会主義移行への必要の条件であるとい

アメリカ帝国主義の諸政策に対する反独占統一戦線の役割は民主主義闘争においても大きな力を発揮せずにはおかないだろう。イタリア共産党の経験において実証されている通り「反独占の新しい民主主義と呼ばれる一般民主主義の課題のはんえいが一層ひろがり、人民の広汎な階層にとってそれがもつ意義がいよいよ重要になっていることが革命の発展そのものの中に反映されるという結論と、その課題の解決は高度に発達した資本主義国においても社会主義への移行の必須の条件となっている」のである。日本帝国主義は、より一層の資本蓄積と海外進出のために、アメリカ帝国主義と自発的に協力関係を結び、国民大衆の犠牲をさらに大きくしようとしている。ひとにぎりの独占体と労働者を中心とした国民との溝はますます深まっている。共産党は日本帝国主義はアメリカに従属しているとして、一つの敵（アメリカ）を設定して二つの敵（アメリカと日本）を主張し、われわれの当面している課題は民族民主統一戦線による民主主義革命であるとその綱領に規定した。だが、われわれの直面している主要なる矛盾は、階級矛盾、すなわち日本帝国主義復活による独占と労働者、さらには国民大衆との間の矛盾の激化である。この規定が運動の幅を狭めるという理由をもって、民族矛盾―アメリカ帝国主義と日本人民の―を強調することは、反独占民主主義闘争の今日の一般的意義―これが社会主義移行の必須条件であるという―を軽視する意味において、かえって運動の力量を低下させると思われるのである。

以上長きにわたって、構造改革路線の理論的背景に目を向け、反独占国民統一戦線によるたたかいの今日的意義とその必然性について論及し、日本帝国主義自立とそれに対する反独占の闘いの重要性と正当性について論じた。



新島から

特殊条件を生かした

―新島の闘い―

ミサイル試射場建設工事の進みぐあいと、それに対処する反対同盟の闘いの展望をお知らせします

防衛庁当局の工事予定として第一期工事、（七月上旬より十二月二十日まで）瀬戸山兵舎、火薬庫（二）、門衛所、管制塔第二期工事（八月上旬より十二月二十日まで）点火薬庫、高速度カメラ観測所、試射台（二）三七年度早々試射の予定。

以上のようにスケジュールが組まれています。工事は比較的工事の容易なところから集中的に行うという方法がとられていますが、その進行情況はかならずしも予定通りには進んでおらず、そのテンポもかなりにぶいものであります。

ハバタの試射場予定地の上の田島小屋からの観察によりますと、予定地の整地も大分進み、二、三の建物が建ち、発射台の基礎工事等も行われているようですが、試射場予定地内に有る反対派島民の所有地だけはそのままに残されています。また、『ミサイル試射場』といいますと、私達のイメージには軍需基地としての何かものものしいものが浮んでくるのですが、ハバタの工事は、おおよそそのようなものからは程遠く、極端にいって積木細工のような感じさえ受けます。これは、ミサイル道路の基礎工事は終ったが、あくまでも基礎工事の段階であって、新島特有の砂地の多い山道を固めただけのものであるため、雨が降る度に端が崩れてくるという状態であること。また、反対同盟の拠点小屋の一つである水島小屋の前の道路と、さす池の二地点では道幅が三～四mしかないこと。これら二点はミサイル関係資材と巨大な建設機械の運搬を困難にしており延期は現在二つ行われており、定地であるハバタ地区の真ぐ上にあり、その為、この小屋からはハバタの全体を見渡すことが出来ることから、ミサイル試射場内の工事進行情況をつぶさにキャッチでき、軍需基地の持つ性質からもこの小屋の存在は防衛庁にとっては実に具合の悪いことなのです。

飛行場予定地の三軒の小屋の重要性についてはよくお解りのことと思いますので、法廷闘争について記します。土地を守るための法廷闘争は現在二つ行われており、これは反対同盟の頑強な抵抗にミサイル道路拡張を断念せざるを得なかった私有地の部分を、再び強行拡張しようともくろみ、その際起きたものであります。このように、防衛庁側では折あらば工事を強行しようと狙っており、反対同盟側では、六軒の拠点小屋を守ると共に、土地の私有権を法的に確立し、工事の進行に直接打撃を与えようとしています。この闘いと平行して島民の多数をミサイル反対に統一し、闘いの全国化を実現させることの必要性が痛感されますが、村内の賛成派の動揺に伴ない情勢が有利に展開していることは前便でお知らせした通りです。（章）

それはハバタ地区山林に関するものと、ミサイル道路の私有権侵害に関する問題であります。ハバタ地区の山林は、明治以前から新田郡六軒の小屋を守ること、ミサイル道路およびハバタ地区の反対同盟島民の土地私有権を守る法廷闘争、等を行っており、これらと平行して村の賛成派、反対派の力関係を反対派に有利なものとする為の地道なねばり強い活動を進めています。水島小屋の重要性は前記の通りです。では田島小屋はといいますと、この小屋は試射場予防衛庁の思い通りに工事が進行しない一つの要因となっています。現在反対同盟は、その闘いとして田端、水島、白田、飛行場予定地の計六軒の小屋を守ること、ミサイル道路およびハバタ地区の反対同盟島民の土地私有権を守る法廷闘争、等を行っており、これらと平行して村の賛成派、反対派の力関係を反対派に有利なものとする為の地道なねばり強い活動を進めています。水島小屋の重要性は前記の通りです。では田島小屋はといいますと、この小屋は試射場予定地であるハバタ地区の真ぐ上にあり、この為、この小屋からはハバタの全体を見渡すことが出来ることから、ミサイル試射場内の工事進行情況をつぶさにキャッチでき、軍需基地の持つ性質からもこの小屋の存在は防衛庁にとっては実に具合の悪いことなのです。

飛行場予定地の三軒の小屋の重要性についてはよくお解りのことと思いますので、法廷闘争について記します。土地を守るための法廷闘争は現在二つ行われており、これは反対同盟の頑強な抵抗にミサイル道路拡張を断念せざるを得なかった私有地の部分を、再び強行拡張しようともくろみ、その際起きたものであります。このように、防衛庁側では折あらば工事を強行しようと狙っており、反対同盟側では、六軒の拠点小屋を守ると共に、土地の私有権を法的に確立し、工事の進行に直接打撃を与えようとしています。この闘いと平行して島民の多数をミサイル反対に統一し、闘いの全国化を実現させることの必要性が痛感されますが、村内の賛成派の動揺に伴ない情勢が有利に展開していることは前便でお知らせした通りです。（章）

十條製紙
社長　金子佐一郎
本社　東京都中央区銀座東3の4
工場　十条・伏木・都島・小倉・八代・坂本・釧路

英会話上達の秘訣!!
それは優れた外人教師につくことです。
東京唯一の外人ばかりの教師陣を誇るアイ・エス・スタジオでは英会話の実力あなたの英会話の実力をどうぞ自信をもって！
英会話学院
アイ・エス・スタジオ
池袋校：池袋東口三井銀行ヨコ
TEL 971—2450
麻布校：麻布六本木都電停マエ
TEL 401—8636

インキが見える　クリアー・アイ
■書きながらインキが見えるスペアー式の新しいペン
パイロットスーパーV
●スペアーインキ　6コ付　¥1,000
ほかにスペアー式・インキビンからの吸入式共用　¥2,000

共立出版の好評科学書
スミルノフ 高等数学教程 全12巻
修 弥永昌吉・河田敬義・寺阪正夫　監 福原満洲雄・三村征雄・吉田耕作
偉大なる一連の数学者スミルノフが、スターリン賞を受賞した数学体系書で、単に基礎論のみでなく応用面にも十分な意を配った。
▼第9回配本中▲
★各巻／A5・二〇〇～二六〇頁・価六〇～六八円
現代物理学演習講座 全8巻
編 伏見康治・宮島竜興　小野周・高橋秀俊
物理学の法則がどのように実際に応用され、物理現象に結びついてゆくかを知る点へもっとも重点をおいて精述した。
▼全巻完結発売中▲
★各巻／A5・平均二五〇頁・価三〇～三五円
核物理学講座 全12巻
編 菊池正士・木村健二郎　朝永振一郎・湯川秀樹
斯学の権威者を総動員して核物理の全貌を収録した。記述にあたっては、なるべく数式を用いず物理的意味に重点をおいた。
▼第10回配本中▲
★各巻／A5・平均二五〇頁・価六〇～七五円
新分析化学講座 全12巻
日本分析化学会編
単なる網羅主義でなく、最も要求度の高いものから重点的に解説するとともに、あらゆる分野の標準分析法・試験法を平明に説いた
▼全巻完結発売中▲
★各巻／A5・平均二五〇頁・価六〇～七五円
高分子実験学講座 全14巻
高分子学会編集
現代は高分子時代ともいわれている。それほど高分子はあらゆる面に進出している。本講座は理論・実験のすべてを収録した決定版
▼全巻完結発売中▲
★各巻／A5・平均二五〇頁・定価八〇〇円
生化学講座 全15巻
片桐英郎 他13名編
生化学の動的な面と静的な面を体系的に平述するとともに、実験法についての主要な装置および技術も洩れなく収録した。
▼第12回配本中▲
★各巻／A5・平均二五〇頁・価二五～三〇〇円
基礎電気工学講座 全15巻
編集 尾本義一・後藤以紀　神保成吉・堤秀夫・山下英男
技術革新時代の潮流に応じた項目を厳選網羅するとともに、とくに物理現象に重点をおき詳述。初学者のため演習問題も豊富に収む
▼第11回配本中▲
★各巻／A5・平均二〇〇頁・価二〇～二八円
現代エレクトロニクス選書 全61巻
続々刊行中！
本選書はさきに完結した「電子・通信工学講座 全13巻」の全巻と「通信工学講座 全12巻」の一部を訂正増補し単行本の形態にしたもので、すでに定評ある一大体系書。
A5判・五二～一八六頁　定価一五〇～六〇〇円
好評新刊書
新しい物理学 福田・広重著 A5・定価三八〇円
定量分析の実験と計算 3巻 高木誠司著・A5・五九〇頁・定価一八〇〇円
物理化学 I 共立全書 小野宗三郎他 B6・定価四八〇円
機構学講義 II 共立全書 渡辺茂著 B6・定価五〇〇円
市民の数学 全8冊 穂刈四三二・矢野健太郎　黒田孝郎・遠山啓編
■第2回配本中■
東京都神田局区内駿河台3の9
振替東京57035/電話東京(291)7121～7

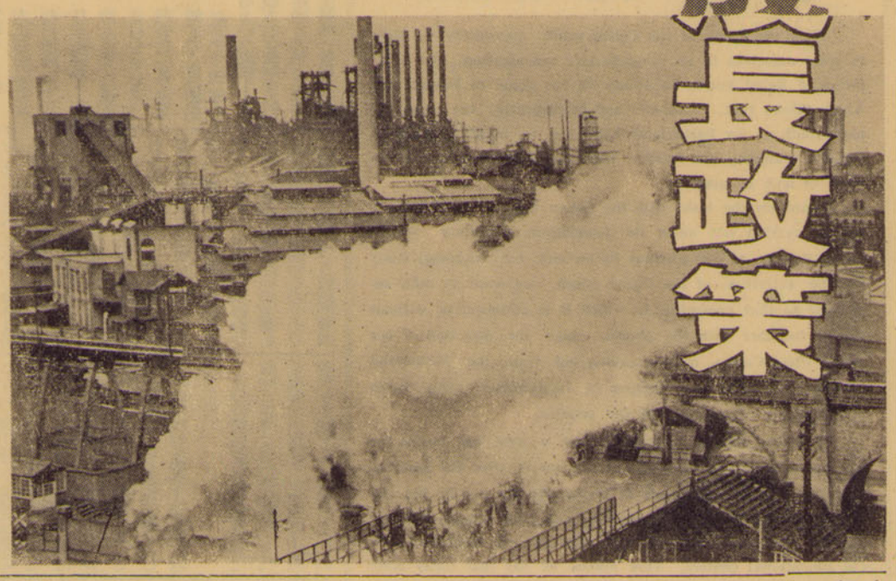
崩れゆく成長政策

七月三日　日銀公定歩合一厘引上げ／八月一八日　輸出振興対策を閣議決定／九月一六日　輸入担保率の引上げ／九月三日　国際収支改善対策を閣議決定／九月二八日　日銀公定歩合引上げ／"IMFから二億五千ドル、年内借款か"（一〇月三日　毎日新聞）。

高成長と所得倍増の新政策をもって登場し、"経済のことはまかせておけ"と広言した池田内閣はそれからわずか二五ヶ月後の現在、政策の行詰りを前に、無残にもその転換をきたすとされている。

国際収支における二〇億ドルにものぼる誤算、したがってまた日本経済の全体的危機という現実のみをとりあげても、それは池田内閣の総辞職を迫るに充分なものである。

しかしながら現在われわれが、もっとも徹底的に行なわなければならないのは、たんなる統計上の誤算を明白にすることだけでなく、なぜ彼の成長政策であるのか、成長政策がもたらす現実はなにか、さらには成長政策の挫折によってひきおこされるものはなにか、といった点への論究であろう。そこには、自らの体質改善を行って、帝国主義自立への道を急ぐ日本国家独占資本主義の異常なまでの貪欲さと、苦悶の姿が鮮かに現れている。



成長政策の必然性 ＝ 国際市場進出をめざす 独占資本の体質改善

資本主義社会において、経済の高度成長は強蓄積の別名であり、つねに資本家が自らの最大利潤を追求するためにのみあるものという。しかも日本の独占にとって今日それは自らの生命を賭してまでも実現しなければならないものとなっている。

一九二六年、レーニンによって「若々しい異常な速度で発展しつつある資本主義国」（帝国主義論）といわれた日本は、第二次大戦後の今日も、西ドイツとならんで最も速いテンポで発展しつづけている。（第一表参照）

日本資本主義がこのように急速な発展をなしえた要因として、まずなによりも低賃金と高度な搾取をあげなければならないのだが、それと同時に、発展過程における特長的なもう一つの側面は、原材料に乏しい日本資本主義は、その出発点からつねに輸入超過国であったこと、さらに戦前においてその解決手段はもっぱら対外侵略であった点である。日清、日露戦争による原料と商品市場の奪取は、その典型であり、しかも当時においてはその賠償金は資本蓄積として重要なものであった。

このような発展過程を経てきた日本資本主義にとって、第二次大戦による植民地主義の崩壊は決定的な痛手であった。それは独占的に支配しうる商品市場と安価な原料供給地の喪失を意味するものであった。

しかしながら、こうした悪条件のなかで、日本資本主義は再び復活してきた。それは、特需を主とした対米依存と戦前に比して、何らの変化をみない低賃金と高度な搾取によってなしとげられてきたのである。

しかし、元来原材料の不足を低賃金によって補なうという不安定な基礎の上にうちたてられた日本資本主義にとって、その前途はつねにシビアーなものとならざるをえない。

とりわけ戦後の世界貿易が、工業国間貿易の発展と後進国の工業化の進展のなかで、重化学工業品を主導商品とする傾向がますます強くなっている趨勢を前に、繊維品・軽工業を中心とする伝統的な日本資本主義の産業、輸出構造は国際競争力において、徹底的な後れをとるのである。自らの最大限利潤を保証する帝国主義的自立を、急ぐ日本資本主義にとって、重化学工業部門の強化はなにがなんでもなしとげなければならない至上命令である。

しかも、国際市場進出の激烈な競争を意味する貿易・為替の自由化を目前にしている現在、それはなお二層の重要性をもってくる。

この点に、池田内閣が高度成長と所得倍増の経済政策を掲げた必然性が存在する。

経済政策の意図するのは、設備投資による徹底的な合理化、技術革新、すなわち日本独占の体質改善以外のなにものでもなかった。

それでは、成長政策はどのように具体化されていったのだろうか。

成長政策の現実 ＝ 民間設備投資の急増 いちじるしい国家的措置

戦後日本独占資本の急速な経済成長の原動力が、急速な設備投資＝強蓄積にあったように、池田成長政策もまた、急速な民間設備投資を支柱として実現していった（第2表参照）。

最近の経済企画庁発表によると三五年度民間設備投資総額は三兆五〇九億で、対前年比四〇・八％増というものすごさである。しかも三六年度に入って、その勢いは一層激しくなってきている。

しかもそれらの実現が、成長ムードにあおられた、一般的投資意欲の増大に依拠していたばかりでなく、積極予算と低金利政策という国家的手段に依拠していた点に注目しなければならない。

財政投融資は三四・五年度の増加にひきつづき三六年度予算においては対前年比三二・七％増となった。

第1表　生産の成長率（年率、%）

	1923～29	1950～58
カナダ	4.9	4.0
西ドイツ	2.8	7.4
フランス	2.3	4.3
日本	5.1	7.9
イギリス	2.9	2.2
アメリカ	3.3	3.3

（注）国連「世界経済年報」1960年版による

独占の必然的帰着 ― デフレへの傾斜は必至

直接挫折の要因となった国際収支の問題は、後に論究するとしてついで取りくまなければならないのは、設備投資の過熱策によってもたらされた物価、労働経済、中小企業等の変動についての中小企業論究であろう。

物価問題にみる……内需と輸出の矛盾

まず物価問題はどうだろう。

設備投資による生産性の上昇はふつう物価低落、賃金上昇、利潤増大の三つを実現するのだが、昨年来の物価の上昇は、この常識をまったくくつ破った。卸売物価一・八％、消費者物価四・九％という大幅な騰貴がそれを示している。

池田首相は、この物価変動について、"労働力不足による値上りで、それは卸売物価の騒調からも明らかである"といっているが、しかしこれはまったくの偽瞞的弁解でしかない。なぜなら、最近の物価騰貴は、独占資本の強蓄積過程でおこった必然的な現象であり、加えて、それは独占資本の超過利潤取得を永続的に可能ならしめるための変動なのである。以下それを考察しよう。

独占の旺盛な設備投資による生産性の増大と、なおかつ輸入原材料の価格低下、生産性の増大による労務費比率の低下によって、製品価格は当然下落しなければならない。しかし現実はまったく逆である。

ちなみに、今年の経済白書が試算している、生産性増大による可能な価格引下げの率をあげてみると独占の莫大な利潤がうかがい知れる。すなわち三一年上期以降三五年上期までに、製造業全体で三・二％、電気機器は一二・二％、自動車は二五・五％の価格引下げが可能であったという。ところが現実には、製造業全体で二・七％の低下であり、電気機器にいたっては逆に二・九％上昇し、自動車は八・七％の低下にすぎない。

以上のごとく莫大な利潤を獲得した独占資本は、それらの大部分を自らの過去（減価償却）または将来への資本として蓄積したのであるが、それはまた中小企業の物価へ波及していったのである。

大企業での旺盛な設備投資ともなう雇用吸収力の増大は、中小企業において新規学卒労働力不足となって現われた。中小企業の労働力不充足率は三七％にも達しているという。したがって中小企業は、新規労働力確保のために初任給の引上げを行わなければならなかった。これは、生産性の低い中小企業において労務費比率の増大を意味し、価格上昇の直接的圧力となったのである。

また公共料金の値上げについては次の点を指摘するだけで充分であろう。事実老朽化している設備の改善等、公共企業体における投資々金は、本来財政投融資によってまかなわれなければならない。しかしそれは、独占資本にとって自らの強蓄積を実現するための、社会的蓄積フォンドの減少を意味し、到底独占の容認するところではない。したがって、公共企業体の投資々金は大衆料金によってまかなわれることになる。

また、料金値上げは直接独占にとっても負担となるのだが、独占向け料金のマイナスを大衆料金によって埋めあわせるという独占体優先の原則がある以上、公共企業体の改善は結果的に経済基盤強化、中小企業に上層へ集中する傾向が一層つよい。雇用形態別では、全般的な増勢がいくぶん鈍ったが、臨時工の増加率が二四・三％で、本工の九％に比べて非常に高い。しかも五〇〇〇人以上の企業においては、本工八％に対して、臨時工は四一％と圧倒的な増加である。また社外工も全体で一六％の増加を示している。

(2)賃金は対前年比七・三％の増加で前年を上まわったが、消費者物価の騰貴によって、実質賃金は三・二％の増加にとどまり、前年より低下した。学卒の初任給は、五〇〇人以上の企業で一一％、一五～九九人で一六・五％の増加と中小企業ほど増加率が大きい。

立ちおくれる……労働経済の実情

ついで労働問題にふれよう。

まず雇用と賃金の三五年度概況を「白書」によってみてみると…。

(1)常用雇用指数は対前年比二一・四％の増加。産業別には建設業の一六・二％と製造業の一三・五％がそれぞれ著しい増加を示している。雇用増加を規模別にみると、五〇〇人以上の企業で一七・四％の増加。それに比して五～三〇人の企業までは七・五％の増加、と新規学卒と若年を中心に、大企業中小企業上層へ集中する傾向がつよい。雇用形態別では、全般的な増勢がいくぶん鈍ったが、臨時工は四一％と圧倒的な増加である。また社外工も全体で一六％の増加を示している。

(2)賃金は対前年比七・三％の増加で前年を上まわったが、消費者物価の騰貴によって、実質賃金は三・二％の増加にとどまり、前年より低下した。学卒の初任給は、五～九九人で一六・五％の増加と中小企業ほど増加率が大きい。

第2表　国民総生産の対前年増加率および同寄与率

区分	34年	35年
国民総生産増加率	20.1%	15.0%
同寄与率	100.0	100.0
民間投資	63.3	52.3
設備	16.9	48.5
住宅	1.9	3.3
在庫	44.5	0.5
財政支出	14.9	12.5
個人消費	23.9	40.4
海外経常余剰	−2.1	−5.2

（注）35年分は推計数
【備考】日銀調査局、調査月報36年5月号より

中小企業に拡大……する独占の支配

最後に中小企業の実態についてごく簡単にふれよう。

企業合理化をめざす高度成長のもとに、自らを崩壊していく弱小企業はさておき、急激に発展する中小企業においても独占による支配はいぜんとして拡大している。

現在、急激な生産上昇を示す中小企業として、機械工業（とくに家庭電器、自動車、産業機械、工作機械）部門があげられる。これらの部門における中小企業の三五年度生産増加率は大企業とおよそ同程度のものとなっている。それはこの部門の大企業が部品メーカー、外注加工々場への依存度を急激に上昇させていることから説明できる。すなわち三〇年上期に比して、三五年度下期における新工場と外注加工々場の延べ労働時間数の増加率は、前者が約二倍であるのに、後者において倍ゴ五倍に急増しているのである。

しかしながら、これら中小企業の発展も系列下の部品工業、あるいは下請制をつうじる中小企業収奪の程度が本質的になんら変っていないのであるから、中小企業の発展がただちに独占の支配力を弱めているとはいえず、むしろ逆に独占の支配力を拡大していることを意味する。

以上、成長政策の現実を二、三の点から考察したのであるが、ついで、成長政策挫折の直接的要因となった国際収支について論究しよう。

成長政策の挫折 ＝ 挫折の直接的要因 「国際収支のカベ」

原材料が乏しく、重化学工業部門の開発がおくれている日本資本主義において、旺盛にして急速な設備投資は、ただちに国際収支の赤字を生ず、その壁に打ちあたらざるをえないのである。

生産手段の私有と利潤のための生産を基礎とする資本主義経済において、経済発展は盲目的な市場競争の後に、諸法則の事後的適用によって調整される以外にないのだが、このことは国内ばかりでなくむしろ世界市場においてこそ、統御が不可能な力をもつものである。不均等に発展する資本主義諸国の運動は、世界の市場における既成の市場関係や資本関係をつねに破壊し更新するものであるが、こうした競争と角逐の過程で累積された矛盾は、各国の国際収支に反映し、外的制限として各国経済に作用するのである。

さらに日本資本主義の特殊的条件を加味すると、それは一層強力な制限とならざるをえない。

すなわち、対共産圏、とりわけ対中共貿易の遮断は決定的に市場の不利を招くものであり、また、自由化後の国際競争が当面問題化し争として行われるのであれば、日本資本主義においては、重化学工業部門の強化が急務となり、それはまた、機械類や原材料の輸入水準を一層高めることになる。

不利な市場構造と競争条件をかかえての高成長は、不可避的に国際収支を圧迫することになる。

昨年来の国際収支の動向は第3表で明らかだが、今年初頃までとうにか短期外資の導入で黒字をつづけてきた総合収支尻も、五月に入って七九〇〇万ドルの赤字を出すにいたった。それ以後の動きも引きつづいて逆調一方で、八月末現在の外貨準備高は、ついに一七億二一〇〇万ドルに低下した。

ところで、日本の外貨保有高は金が約二億五〇〇〇万ドル、政府が外国銀行に預けて経済資金の保証にあてている外貨が約二億五〇〇〇万ドル、政府・日銀が外貨にしている定期預金が約六億五〇〇〇万ドル、計一一億五〇〇〇万ドルであり、したがって外貨準備高としては、この額がボーダー・ラインとなるのである。

八月以降の動向も、在庫補充輸入は一段落したものの、設備投資にともなう機械輸入は相変らずの伸びを示している。

ここにいたって、政府もついに政策転換をきたすにされた。

七月三日の公定歩合一厘引上げについて、九月二五日に輸入担保率の引上げ、同じく二八日には公定歩合の一厘再引上げと準備率の引上げ、高率適用の強化、とつぎつぎにやはり金融引締め政策が実施されていった。この間、一方において輸出振興策や、通産省による設備投資一割削減の行政指導なども実施されていき、金融政策と相まって、九月二六日には、輸出振興と内需抑制を柱とする「国際収支改善策」が閣議決定となったのである。

これによる三六年度の推計は、藤山経済企画庁長官の説明によると国民総生産は一六兆六〇〇〇億円で三五年度実績にたいして実質九・九％増となり、設備投資は三兆八〇〇〇億円で二四・六％とひきつづき増大し、経常収支においては一〇億ドルの赤字、総合収支もまた六億ドルの赤字になるという。

政府は先の国際収支改善策の実施によって、来年の秋ごろまでに国際収支の均衡を回復できるという意図らしいが、こうなると、経済成長率の方も低下させざるを云なくなる。勧銀の推計によると成長率は5％程度に低下させなければならないという。

ともあれ今後の調整には、五〇〇〇億円の自然増収をかかえた来年度予算の編成が重要なポイントとなるであろう。

第3表　36年の国際収支（100万ドル）

	資本収支	経常収支	総合収支
1月	+586	−462	+124
5	+51	−130	−79
6	―	−147	−42
7	―	−120	−68
8	―	−100	−103

（注）日銀為替統計

成長政策のあとに ＝ 循環法則の発現形態 恐慌への第一歩か

池田高度成長政策の挫折は明白となった。

国際収支改善策は、日本経済のあらゆる面へ多くの影響を与えるであろう。まずそれはデフレへの傾斜となってあらわれることは必至である。中小企業の倒産は、すでにあらわれはじめたし、失業者の増大もまた当然であろう。

とくに労働経済のところでふれた臨時工・社外工の増大は、この場合深刻な問題となる。

そうした予測もさることながらいまわれわれが論究しなければならないのは、成長政策の挫折にみる循環法則の実現という点である。

三六年度経済白書にも集約的に示されていることく、いわゆる日本の官庁経済学者達は、景気循環にたいして、恐慌―不況―活況―好況―恐慌というマルクスによるサイクルを否定し、好況―沈滞―好況の連続という型を適用する。

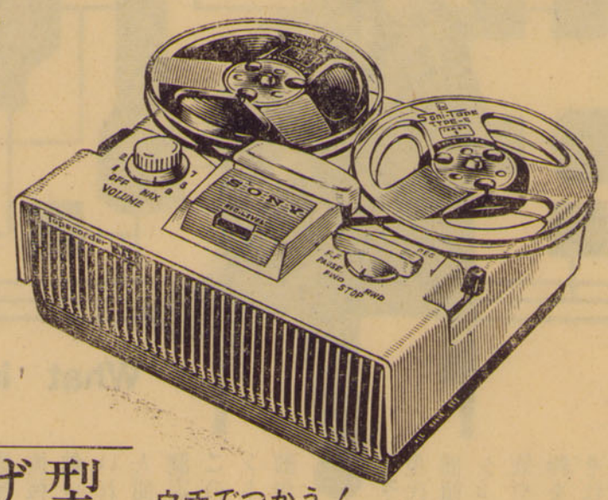
彼らは、高度に発展した国家独占資本主義のもとでは、激しい景気変動を避けることが可能であるという。その理由として、大衆消費の増大、財政、信用制度による市場創出、政策によるコントロール等をあげている。

いまここでそれらのすべてにわたって論究するゆとりはない。したがってここでは、「恐慌は雇用増大と賃金上昇とをつうじて、個人消費がもっとも増大する好況の中で準備されること、また景気過熱からデフレ政策への転換をよぎなくされた三二年の経験があるにもかかわらず、いまだ設備投資の強成長から、ふたたび国際収支の赤字をくりかえしている事態を考えて、資本主義における政策はそれが不可避となった時点においてのみ、事後的に行われる」という今井則義氏の論文の要約をあげるにとどめるが、この要約によっても好況―沈滞―好況の連続する型が現実の経済にまったく適用しえないことがわかろう。

もちろん、一九二〇年代の経済と六〇年代のそれとは、大きなへだたりがあることを認めても、なお今井氏のいうごとく「一九二〇年代の高成長と早い発展のなかで作用し、一九二九年恐慌として自己を実現した循環法則は、五〇年代から六〇年代にかけての生長と発展の中で作用しつづけている」したがって「やがて二〇年代の場合と同じように、激烈な過剰生産恐慌が不可避となる」という。まして、そのとき、日本のようにもっとも急速な発展をした国では恐慌もまたもっともドラスティックなかたちをとってあらわれるといえる。

成長政策の挫折の要因を、はなはだしきは、たんに池田首相の強気や、下村理論の誤算だけに求めたり、あるいは過熱政策の「摩擦現象」と規定することはまったくの誤りである。それはなにより循環法則の描く軌跡の上を忠実に歩む資本主義経済の発現形態であり、また資本主義経済においては「成長」と「安定」と同時的に達成することは絶対的に不可能である、という循環法則自からの実現であるといえる。

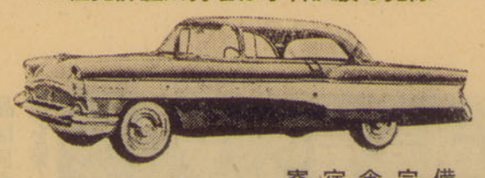
日本の生んだ世界のマーク
SONY®
ご家庭用から放送局用までソニーテープコーダー
語学上達の早道


モッテあるく！
手提げ型
ウチでつかう！
テープコーダーのコンサイス版　111型（スリーワン）　¥19,800
ソニー商事株式会社　東京都品川区北品川6－387（カタログ呈）

寿司・和洋食
皆様のレストラン
御宴会に
コンパに
出張料理に
三幸
池袋西口　TEL（971）3501・3502

立大生の店
とんかつ・一品洋食
吉田屋
池袋西口バス通り
TEL（971）6538

和菓子　喫茶
名物　大最中
三原堂
池袋西口
（971）2070・8080
池袋西口
（983）3915
（982）8305
モンドーレ
MONDORE
（三原堂直営）
高級フランス風
洋菓子　喫茶

正しい交通法令で正しい運転の練習
実地試験免除
入学随時
日本一を誇る50,000平方米コースで初心者
でものびのびと正しい運転の練習ができる
異種免許証所持者は学科試験も免除

寄宿舎完備
学校法人　東急自動車学校
校長　柏村　毅
東京都大田区田園調布3の54
TFL（721）3315・7071
交通便利な東京急行電鉄
東横線・目蒲線　多摩川園前駅下車

新築開店
支焼麺　¥30
焼飯　¥50
焼麺・包子・餃子・シウマイ　¥50
大小宴会
美味・廉価
TEL（982）2213・3433・8200
中國料理
北京亭
別館
シネマロサ前

批判的政治と批判的文学

―「政治と文学」論への批判―

小林祥一郎

「政治と文学」という問題は、以前から平野・蔵原論争等多くの論争を生んできたが、先頃の日共大会に於ける新日本文学会の動きを契機として、今またこの問題が論議をまき起こしている。政治と文学との関係をさらに発展させてゆくために、この問題はさらに検討されてゆく必要がある。今回を契機に、読者から異論や感想を本紙宛に積極的に寄せられることを期待する。（編集部）

政治と文学という問題にかんする、大さっぱな見とり図を考えてみるにあたって、すでに大正時代に、夏目漱石は次のようにのべている「点頭録」の言葉は、はなはだ予見に富んでいるように思われる。「現代の日本に在って政治は飽くまで政治である。思想は又何所迄も思想である。二つのものは同じ社会にあって、てんでんばらばらに孤立している。そうして相互の間に何等の理解も交渉もないままに両者の運命を見出すかと思うと、それは発達段階の形式に於て起る抑圧的なるのばかりである」大正期天皇制の下では、なお、文学は政治にとって、そして政治は文学にとって偶発的な事件として対応していたにすぎず、そうした対応関係において、政治は無媒介に文学を従属させているというのが、漱石の批判的観測であった。

『近代日本の思想と文学』（岩波講座日本文学史）において、丸山真男はこの漱石の文章を引用し、このようないわば第一期における政治と文学、または政治と思想の関係に、一大転機を画したのが、マルクス主義の政治運動と文芸との関係であるとのべている。丸山によれば、第一期におけるマルクス主義の出現によって、はじめて「国家」機構としての政治から区別された、「社会」思想としての政治がみちびき入れられる。そして後者の、プロレタリアートの立場にたつ政治とは、「科学の意識的適用」と考えられ、この科学性と理論体系をたかだかとして政治と文学とははれがたく強く結びつけられたのであった。昭和七、八年ごろ、宮本顕治、蔵原惟人らによって強調された、文学に対する「政治の優位性」という原則は、じつは文学と政治に対する科学的世界観の優位性、その世界観を原理とする党の優位性ということにほかならない。

しかし、丸山真男によれば、このような過度な合理主義的、科学主義的反政治の主張は、かえって政治に対する不満と無関心を同時に増大させる。「そこにはトータルな『理論』によって裁断され、あまり切れ切れとして意識の世界に堆積した非合理的な情動が『運動』の下降によって急激に意識化され、それが『理論』と等式におかれた『政治』にさまざまな形で復讐したという要因があった」と丸山真男は指摘する。こうして第三期の退行期においては、政治の優位性のもとでの科学と文学との無媒介な結合は、小林多喜二のパセティクな弾圧による死などを機縁として、「知性の個性的差異を抹殺するのではなく、むしろそれを確認しながら、相異を組み合わせて行く」ことで樹立される「包括的世界概念」を求めているようである。かれはH・G・ウエルズの例をひきながら「これがユートピアといわれることを自も承知して」「暴然としてこのような思想を求めている。こうして政治と文学との関係は、一つの啓蒙的近代精神の結実をみるまで、泥沼のなかでもがきつづけねばならぬのであろうか。たしかに、政治と文学との関係は丸山真男が巧みな手さばきで分類してみせたように、時期によって種々の変異をみせつつ今日にまでひきつづいている。しかし、大正初頭に夏目漱石が指摘したような対応関係――政治と文学とは媒介されることなく、両者がたまたま接触するときは政治が文学を機械的に従属させるという関係――から、どれほど根本的な変革をみたであろうか。政治と文学とを当時の「マルクス主義的」世界観で媒介するこころみは、この世界観を創造的方法として理解せぬことによって、結局深い対応関係を発見できないままに放置されてきた。

この場合、「マルクス主義」の世界観は一つの機構の総合的象徴として置かれたために、世界観による政治と文学との統一的把握とはじつは、政治と文学との機械的結合関係でしかありえなかった。この時期の政治と文学との関係は、いわゆる「芸術大衆化」にかんする中野、蔵原の論争において提起されている。そこでは、中野重治においては、すべて芸術的価値のあるものは、すべて政治的であるという調和関係の中で処理されており、政治的価値と芸術的価値と両者の対立と統一の過程の追及は、この理想的状態の想定によって回避されているのである。またその論争相手である蔵原惟人においては、芸術作品から芸術的価値は追放される。彼によれば芸術作品には、社会的（政治的）価値しかみることができない。芸術作品が芸術性をもつことは「この社会的価値を実現するための条件にしかすぎない。かくして、蔵原惟人においても、芸術（文学）は政治と機械的に結合され、両者の対立関係は追求されていない。

したがって「政治の優位性」は両者の頭脳の中ではその表面的なとらえかたしかとらえられていない現実の深い対応関係の深みからは遠ざけられたものではない。両者のことなるところは、中野は芸術の側から芸術大衆化の要請を政治に向って、蔵原は政治の側から芸術に向って、芸術大衆化を要請しているだけの差異である。この差異が要するに、群盲象をなでるようなものであることに両人が気づかぬかぎり、この論争は はじめから水かけ論に終る運命をはらんでいた。この論争が『芸術大衆化』論として行なわれたことは、すでに政治と文学との関係についての根本原理の検討より、この原理があいまいであることから惹起した政策の腹いちがいであることを示してはいたが、なおこの論争は原理検討へと進む可能性をもたないではなかった。にもかかわらず、それは絵入新聞の発行などを含む二、三の実際的処理で『解決』されたことになり、この論争の過程および解決それ自身が、政治と文学との関係の二つの検討材料となってしまった。のちに宮本顕治から出た『政治の優位性』の主張もこの論争と同じ水準のものであり、政治と文学との関係を相対的に規定する原理検討へと進むべきであった。

政治と文学との関係の検討が、これまでの時期において、芸術大衆化論として行なわれたことの歪みは、つぎの時期に、それが『科学主義と文学主義』という形で論じられたことの歪みと不幸にも対応していることは、丸山真男のいうとおりである。しかし、丸山のようにここから、『理論信仰』と『実感信仰』とを発見し、『個性的な知性』をとなえて両者の折中的発展をこころみてもまったく処置はつきそうにない。むしろ、それより戦争中の窪川鶴次郎が、戦時中の『現代文学論』のなかの『芸術的価値と政治的価値』において、次のようなあいまいな表現でのべていることからの方が、むしろ暗示的である。「かつてプロレタリア文学の敗退期に、政治か文学か、ということが問題にされたのは、文学にたづさわるものが政治との関係において、自己を如何に処するか、また文学に対する自己の態度を如何に決すべきかという、その時代における各人の方途に関する問題としてであった。

そのかぎりでは、それは文学の動向に関する問題であるよりは、個人の内部に発生した問題として意義をもっていた」だが、今日では「政治と文学」という問題は、「改めて提出する必要のないまでに、文学が政治上の意義を持つようになり、政治が文学上の重大な意味をもつに至っている。」

ここで窪川のべている政治と文学との相関的な対立関係こそ政治と文学の関係をさらに発展させるための一つの手がかりになりうるように思う。革命的政治運動の敗退のののちに、国家機構としての政治の腐蝕と強制に窪川が直面したとき、かれは文学の政治への一方的従属の中にのみ「政治の優位性」をみるのでは充分でないことを知らねばならなかった。それは逆に芸術の側からの政治への主張とあわせて、真の「政治の優位」の意味が展開するのである。しかし、窪川はこの困難な課題の実現から、よろめきそれていった。この命題は芸術に対しては政治は否定的媒介として、芸術変革を要求するものであり、政治に対しては芸術家の立場を否定的媒介として革命の思想を準備するものにほかならない。

この作業の同時的な遂行以外に政治と文学との対等な関係、それを根底から規定する革命的な政治運動が出現することはむつかしいであろう。いいかえれば革命的な政治運動は政治と芸術との一見、対等な立場での緊張と対応を通してその未来的な姿態をあらわすのである。その場合、芸術的フィクション（仮構）と科学的フィクション（科学的認識）とのちがいが明らかにされなければならない。

でなければ芸術（文学）と科学との区別論は、芸術をして非合理的なエモーショナリズムへおもむかせるからである。あるいは芸術的フィクションを、現実の全体に対立する普遍的な美という老化した形式主義におもむかせるからである。すでに、紙数もつきたが、かんたんに私の考えをのべておくなら、科学的フィクション（認識）は、媒介された対象であるのに対し、芸術的フィクション（仮構）の特徴は、その一見現実に似た感覚的な仮構によって、人間の欲求をみちびく、要するに媒介された欲求である。われわれは、いわば特殊な反映論として芸術的フィクションについて、さらに分析することが必要であろう。語らなければならぬのは、実はこれから先のことである。（筆者ほやし しよういちろう氏は評論家、新日本文学会会員）

一枚随想

キューバの若者

オスカー・オラマス・オリバ

When we speak of the Cuban youth, necessarily we have to refer ourselves to its revolutionary organization, the Association of Rebel Youth, to which we are proud to belong, and which allows that, cohesively and intelligently, the revolutionary youth of my Fatherland help her to build a Socialist Society, stamping out forever the hated and inhuman exploitation of man by man.

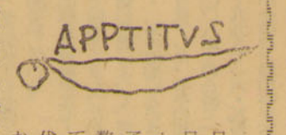
Many are the tasks that the Cuban Rebel Youth Association has carried out since its foundation; voluntary works, armed defense of our glorious Fatherland; but, although many are the activities of the Cuban youth, we want to refer especially to that campaign in which it is colaborating without dismay together with the people, under the direction of our leader Fidel Castro, until stamping out from the Fatherland of Marti the illiteracy, weapon of imperialism, with which maintains its exploitation of the peoples.

With the elimination of illiteracy a new age opens for our Fatherland, and already we can see it over the horizon, when we see how thousands of books are put out by the National Printing Press, how the Technological Schools fill themselves with young people, how the cultural level booms in the educational centers. This makes us say that today more than ever before we are accomplishing the words of Jose Marti: ,,Be educated to be free.''

Highering our intellectual standardsand and working with love, we fullfill our Havana Declaration, contributing with our effort to the struggle for World Peace, General and Complete Disarmament and the edification of a better World, where colonialism, imperialism and all other kinds of oppression will no longer exist.

（筆者はキューバ大使館書記官）

前衛なき現代絵画



秋深し今日も美術でも日が暮れる……てな調子が、ここ数週間続いている。現代絵画はわからないといわれるけれど、なにみればいいのさ…と、ささやかな絵心を頼りに、わたしは現代絵画に悲劇的な挑戦をしたのである。しかしここであえて本根をはくならば、美術の周辺をうろつくのが虚しいと云うのが、痛快かもしれない。芸術作品の深みはそれを鑑賞する人の心の深さにあるそうな。そしてその深みからこたましてる感動に言葉はないと。とすれば、わたしの感受性も知性もやはり現代絵画に呼吸していないのかもしれない。なぜというに、わたくしはやたらおしゃべりであった。つまらないということに対して、それもたわいもない盲語に等しかったのである。

わたしの貧しい感受性がどうあろうと、現代絵画はゆゆしきマンネリズムに陥っていることは言うまでもない。ゆえもなくであろう。いいかえれば革命的な政治運動は政治と芸術との一見、対等な立場での緊張と対応を通してその未来的な姿態をあらわすのである。その場合、芸術的フィクション（仮構）と科学的フィクション（科学的認識）とのちがいが明らかにされなければならない。

でなければ芸術（文学）と科学との区別論は、芸術をして非合理的なエモーショナリズムへおもむかせるからである。あるいは芸術的フィクションを、現実の全体に対立する普遍的な美という老化した形式主義におもむかせるからである。すでに、紙数もつきたが、かんたんに私の考えをのべておくなら、科学的フィクション（認識）は、媒介された対象であるのに対し、芸術的フィクション（仮構）の特徴は、その一見現実に似た感覚的な仮構によって、人間の欲求をみちびく、要するに媒介された欲求である。われわれは、いわば特殊な反映論として芸術的フィクションについて、さらに分析することが必要であろう。語らなければならぬのは、実はこれから先のことである。（筆者ほやし しよういちろう氏は評論家、新日本文学会会員）

そんな調子とは、いうなれば絵画のイメージ不足ある いわ没個性といいえるであろう。それは必然的に絵画の国民性喪失という現象をまねき、異国絵画の到来に、不感症さえ植えつけてしまっている。芸術に国境はないけれども、ある民族、ある国家（社会）がある以上、その枠内に生息する民族の息吹のしみ込んだ美術があっていいはずである。しかるに西欧絵画は東洋のよさみとか、禅の無とかの異質の抽象に個性の接木を試みんとし、しかも日本絵画は西洋の歴史の重み・文明の硬度・そして風土的な彫の深さにやみくも執着しているのである。

このような連鎖反応はむやみやたらに世界にピマンし、かくして絵画は平均化の兆を呈し、この絵は一体全体、どこの国のだれがかいたのかさえ疑わしくなるという大変な国民性喪失の嘆きが出てくるのも自明の理であろう。

悲しいかな、現代絵画の大半を占める抽象絵画にその嘆きと非難が殺到している。具象絵画もその例外ではない。現代絵画のわかる、わからないはさておいて、そのつまらなさ、実にそれは異常な文明の高度化のせいかもしれない。

しかし文明がしいる画主一義無入称化の地帯にあって、画家一人独外の境に生じて普遍的個性の回復を計るパイタリティーこそ、あのつまらなさの脱出への手がかりではかろうか。わたしの盲語が無邪気に許せるなら画家はおしなべて冬眠するべしである。そして日本的な美の感覚・自然との融合などのリバイバルのなかで反省し、その感覚のなかの古い部分をふまえて日本の伝統的な思考に挑戦しなければならない。それがあるべき前衛の姿ではなかろうか（S）

× × ×

憎しみの果てまで

歩む女性像

木下恵介監督「永遠の人」

憎しみだけあって愛のないが、それでも彼女は妻であり母であった。そんな女のイメージを連想すれば、もうこの映画の内容は充分なのである。

小作農の娘、真子は意中の人がありながら大地主の息子、平兵衛に犯され、無理矢理に妻にされる真子の自尊心と希望に闇打ちをかけたキズナはその当時の封建的服従の残酷さを強く象徴している。憎しみだけが発酵し和解のない平兵衛の夫婦は地主制度の経済的基礎ばかりを支えられ他目には幸せそうである。でありながらおたがい加虐的なドラマを待ちはるんで生きている。それは張りつめた弦のようにどんな小さな刺激にも反応過敏であり時として見ると凝ひないようなこの調和感にまで達する。それでも真子は一男一女の母になっていた。母になったことは女の生理の宿命であろう。しかし真子にとれば憎しみの落し子である。女の宿命を、生命の母体である特権を妻として母として憧ればえないところに真子の憎悪の早華した仮借ないエゴイズムがうかがわれる。生れた子供に罪はないけれども、成長する子供はまた反応過敏である。かれらの感受性が父母の異和感をキャッチするとき、この映画の一番良い場面である。映画は真子がなお母性愛に憎しみを忘れるお涙劇の場面をキリ一に省略し、心にいまも真子の憎しみの情に肉迫してかえりみない。こうして長男は自殺し、次男は家を捨て全学連に走り、長女は真子の意中の人の息子と結婚、家を出る。二人の環境はいつも反目が絶えないが、残された真子と平兵衛はしみじみと過去を反省するのである。二人の妥協は強みと愛とを感えた深い人生の領域かもしれない。しかし悉く真子はその憎しみを墓場までもっていくであろうことを暗示している。いくら憎しみとはいえ限度があろう。妥協するに三十余年もかかったという筋道を思いかえすとき真子のエゴイズムのその激しさに女の執念の恐しさを覚える。真子が営々と憎しみのなかに耐えた感情に真子という人間像の骨格の太さをくみとることは困難であろうなぜならエゴイズムの果てまで歩く真子に女としてのナマ身が足りないから……。真子が母であるかぎり、また女であるかぎり、あれだけの憎しみの歳月に耐えられるはずがないのである。真子の胸のどこかにひそんでいそうな弱い人情的な妥協を、生きていくためのささやかな愛情を憎しみの裏にも描出したなら、この映画をみる人は真子の運命にさめざめと涙するであろう。それは決して通俗的な涙ではない。（克二郎）

書評

トロツキー著「わが生涯」（上）

トロツキーは、言うまでもなくロシア革命を勝利に導いた大革命家、大政治家の一人でありこの自伝も、彼の全生涯における革命闘争で貫かれた論争書である。

ロシア革命の歴史的状況内で、彼は理論的反スターリニズムを唱え、それを意識的、積極的に活動していく中で、流刑と亡命の連続を余儀なくされた。

プチブルジョアジーの環境下の一小農民として成長した彼は、早くから故郷に対し、反動的となった。そして獲得の本能、生活の倹約、プチブルの目標に対し反抗的となっていくに従って、彼の社会的、革命的急進主義は、経験主義と呼ばれるもの全てに対する知的反発に由来する様になった。

その後トロツキーは、現存する制度、不正、専制主義に対し深い嫌悪を抱き、当時のアレクサンドリア三世時代の一般的状況から、その時代のあらゆる社会的雰囲気の反対精神を自己の内部に発見し彼の人生から合理主義を放逐し、いわゆるマルクス主義的弁証法の思考態度を確立するに至った。

この様にして、彼は理論的武器を身につけ革命運動に投入した。彼の革命理論の展開は、本書の中では性格上、重点を置いてはいないが、その理論の裏づけこそ、この自伝の中で脈々と流れている。

すなわち、それは、スターリンの『一国社会主義』に対立するもので、ロシア革命は自己の力だけでは社会主義革命は成し遂げられない。必ず国際的規模において一気に社会主義革命を完成させるという、いわゆる『永久革命論』の観点に立脚している。この理論的対立により、彼は幾多の亡命、流刑、追放の浮き目に追いやられた。度重なる思想的断圧にもかかわらずトロツキーは、益々その精神的強靭さの中に自己のエネルギーを貯えていく。

自伝ではあるが、他のそれとは異って客観主義的洞察を排除し、主観的に彼自身の内面的苦悩と、社会的矛盾を歴史的過程に延ずいて鋭く追求している。そして人間関係に於ける深い人類愛の精神は革命家、政治家としての全生涯を通して、我々に深い感動と情熱を感じさせる。この自伝を通して、トロツキーの全生涯をかけた革命闘争の過程での貴重な魂の記録とも云える人間的発展と、当時の政治的状況がリアリスティックに汲み取れる。文章は対話的に書かれている所が多いし、今まで比較的冷遇視されていた、トロツキーの全貌を知るに於いても、この自伝はその入門書として共感出来る。（現代思潮社刊）（T）

初冬の装いに……

趣味の洋品雑貨

ウイスタリア

SHINJUKU

自動車責任教習

免許証取得

安くて早くとれる方法で

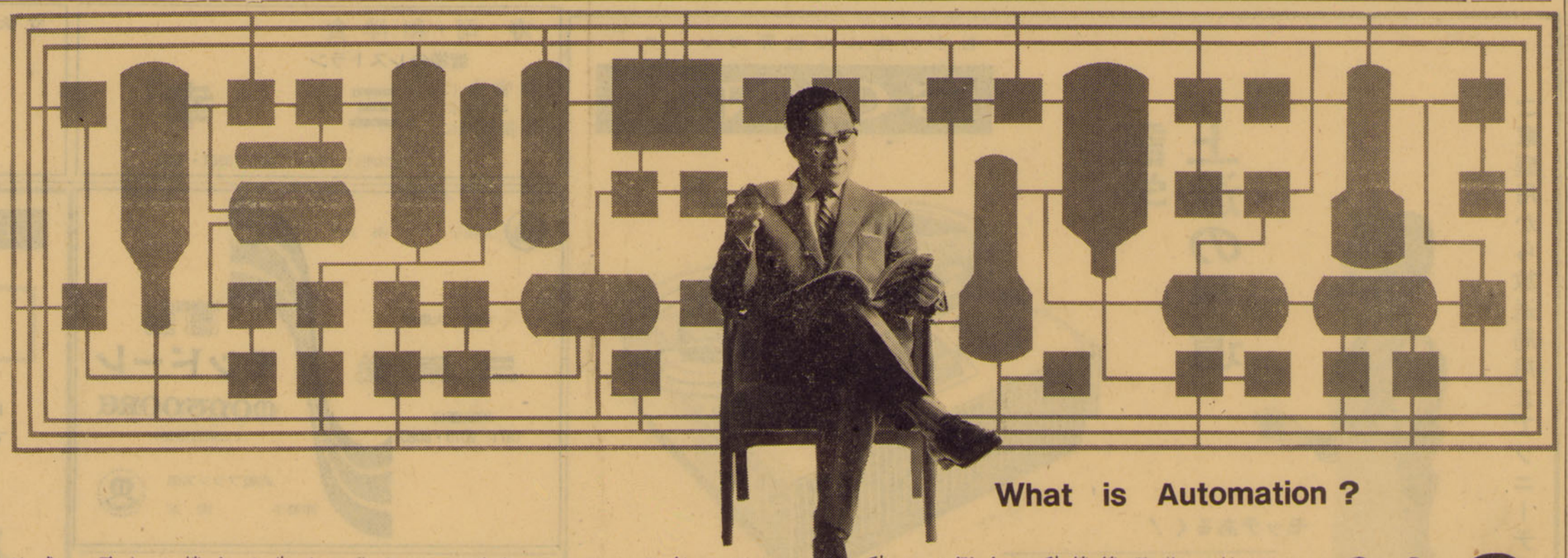
学生割引

車種	入会費	30分教習
普通車	100円	320円
軽四輪車	100円	250円

高田馬場 TEL (981) 3925

山手自動車教習所

創立46周年



What is Automation ?

●これがオートメーションです！

本当のオートメーションとは？

材料が人手なしに加工され、ベルトにのって包装されてゆく――あれは単なる自動機械。

現代の進歩したオートメーションは機械がただ自動的に動くだけでなく機械自身が与えられた条件の通りに動いているかを判断し、まちがっていれば正しい状態になおす、という人間の頭脳の働きをするからです。

測定―判断―命令―調節―測定この一連の動作をフィードバックコントロールといいますが、この循環動作が行われてはじめて本当のオートメーションといえるのです。

オートメーションを可能にした計器

現代のオートメーションで、この人間頭脳の働きをするのはオートメーション計器です。計器といっても電気やガスメーターと違い物を正確にはかる能力それをつたえる能力はかった結果を判断する能力そして必要な命令を出す能力命令によって正確に動く能力を備えています。

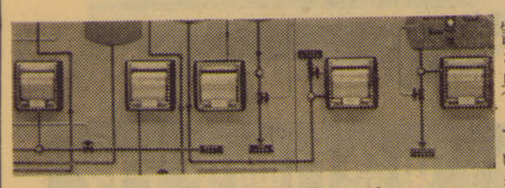
石油産業や化学工業をはじめ、ほとんどあらゆる産業でこのオートメーション計器は使用され品質の安定した製品を大量につくり出して私達の豊かな暮しを支えています。

オートメーションと横河電機

オートメーションは計器の高度の進歩により実現しました。

この9月で創立以来満46年、計器ひとすじに研究し生産して来た横河電機の歴史は、そのまま日本のオートメーションの歴史といってもいいでしょう。

電機計器、測定器、オートメーション計器、そして高性能を誇る全電子式自動制御装置など、ヨコガワの製品は日本産業の技術革新に大きな役割を果しています。



技術革新のコンサルタント

横河電機

YEW 株式会社 横河電機製作所

東京・武蔵野・吉祥寺